



谷地西部小学校 学校運営協議会報告

令和5年度1回目の学校運営協議会を5月16日(火)に、2回目を8月25日(金)に開催しました。1回目は、村山教育事務所より社会教育主事と指導主事をお招きし、「なぜ今、学校・家庭・地域の連携が必要なのか」という内容で研修会を実施しました。また、校長より学校経営方針の概要説明を行い、委員の方に承認していただきました。2回目は、「谷地西部小学校の子供たちに必要な力とは」「その力を育成するために、学校として、家庭として、地域としてできることは何か」について熟議を行いました。第3回目(11/20に予定)に、それぞれの立場で実践したことについて再度熟議を行う予定です。

谷地西部小学校の子供たちに必要な力とは・・・

- ◇地域を知る力
- ◇自ら考え行動する力
- ◇危機察知能力
- ◇(身につけた力を生活に生かす)応用力

その力を育成していくために学校として、家庭として、地域としてできること

〈学校として〉

- ◇子供と地域をつなげるための機会を可能な限り設ける。(学校に地域の方を招く。)
- ◇小さな失敗をできるだけ体験させることが多くの成功体験につながる。そういったことを通して、自己有用感を醸成していく。
- ◇学校で掲げている育成を目指す3つの資質能力と共通する部分があるので、本校の学校経営方針に従って上記資質・能力を育成していく。

〈家庭として〉

- ◇子供に任せる場面を多く設ける。その上で、自信をもたせていく。
- ◇子供たちの「納得」と「やる気」を大事にしていく。
- ◇積極的に地域の行事に参加させていくとともに、子供との会話を通して地域のことに興味をもたせていく。
- ◇危険な場面、全てについて教えていくのは難しいので、様々な事例をもとに自分事として考えられる機会を設ける。

〈地域として〉

- ◇地域全体でやること(風祭等)に積極的に参加させ、子供との接点を多くもつとともに、地区民が集まる場で子供に声掛けを行い、子供に自信をもたせていく。
- ◇子供との接点をもつために、できる限り学校に足を運ぶ。「知らない人だ。」と思われなくらい繰り返し来校していく。)地域の人にも、来校するよう声をかけていく。
- ◇小さい学校のよさを生かす場面を有効に活用していく。(少人数であるため、活躍の場が他地区と比較すると多い。)
- ◇学校で、地域の人が気軽に参加できるイベントを開催してもらえれば来校しやすい。



トライアングルコーナー

～河北町立谷地西部小学校PTA活動紹介～

第2学年 学年行事

二学年委員長:小野陽平

令和5年8月5日土曜日の午前9時から、小学校の敷地内にて自転車教室を実施しました。河北町の交通安全専門指導員の山崎さん・保安員の田宮さんをお迎えし、「ぶたはしゃべるか」「三つの左」のお話や、ブレーキの掛け方やヘルメットの被り方、クイズなども交えながら講習いただきました。

開催時期の遅れにより気温がとても高くなりましたので、実技は校庭では行わず、1・2年教室の裏手(日陰)で行いました。この様な対応が出来るのも小人数ならではの思いです。

2学年のみの自転車教室では無く、毎年全学年を対象に実施すると、安全意識の向上につながると思いました。



※ 8月20日(日)に3年ぶりの親子早朝作業を実施しました。敷地内の草刈りと窓ふきをしていただきました。大変ありがとうございました。

本校の若手教員紹介 (教育界の貴重な30代です)

氏名 大前 圭史 住所 河北町ひな市
生い立ち 兵庫県尼崎市生まれ ⇒ 小学6年生より米国へ移住
⇒ 高校1年生から東京に移住 ⇒ 国士舘大学経営学部
⇒ H29 東京都内の小学校に勤務 ⇒ 25歳で結婚
⇒ 28歳で河北町に移住 ⇒ 天童市立北部小学校勤務
⇒ 令和5年度より河北町立谷地西部小学校勤務(教務主任 1・2年担任)



校長から見た大前教諭のよさ

- ・子供の自主性を大事にする。(子供の力を信じて任せる懐の広さ)
- ・笑顔が絶えない。(大変な時でも忙しい時でも、周りに不快な思いをさせない。)
- ・心から子供のことが好き。(「子供ってかわいいですねえ。」と常日頃から口にする。)
- ・ICT機器の活用が得意(町の教員研修会でも講師を務める腕前)
- ・研修意欲が旺盛(他校で行っている若手研修会にも積極的に参加)
- ・保護者の方に好感をもたれる。(懇親会では引っ張りだこに…)

～ご来校いただき、生の大前教諭をご覧になってください。非常にいい男です。～